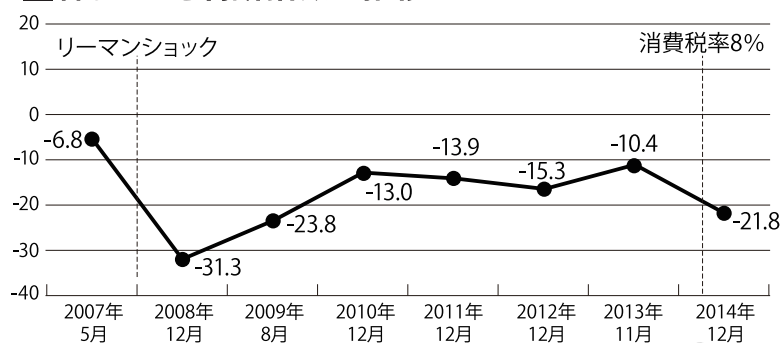


■暮らし向き判断指数の推移



暮らし向き判断指数とは

株式会社ジーコムが年1回行う暮らし向きに関する自主調査をもとに、毎年の動向を数値化したもの。肯定層（「良くなった」「どちらかというと良くなった」と）と否定層（「悪くなった」「どちらかというと悪くなった」）の比率を出し、肯定率－否定率＝暮らし向き判断指数としています。2007年から指数を算出するようになり、今回で8回目の調査。ここでいう「暮らし向き」とは、消費者が毎日の生活や消費行動から感じる自分の暮らしのあり様を表します。

■1年前と比べた暮らし向きの変化

性別	調査数	【%】					【ポイント】	
		良くなった	どちらかというと良くなった	どちらともいえない	悪くなった	どちらかというと悪くなった	肯定層	暮らし向き判断指数
全体	500	4.0	10.6	49.0	25.2	11.2	14.6	-21.8
男性	250	3.6	8.8	48.8	25.2	13.6	12.4	-26.4
女性	250	4.4	12.4	49.2	25.2	8.8	16.8	-17.2
20代	100	5.0	18.0	46.0	21.0	10.0	23.0	-8.0
30代	100	5.0	13.0	53.0	18.0	11.0	18.0	-11.0
40代	100	2.0	12.0	51.0	24.0	11.0	14.0	-21.0
50代	100	7.0	6.0	45.0	27.0	15.0	13.0	-29.0
60代以上	100	1.0	4.0	50.0	36.0	9.0	5.0	-40.0
300万円未満	126	4.8	7.1	40.5	30.2	17.5	11.9	-35.7
300～500万円未満	150	2.7	12.0	50.0	26.7	8.7	14.7	-20.6
500～700万円未満	95	4.2	8.4	55.8	20.0	11.6	12.6	-19.0
700～900万円未満	49	4.1	16.3	49.0	20.4	10.2	20.4	-10.2
900万円以上	80	5.0	12.5	52.5	23.8	6.3	17.5	-12.5

※肯定層＝「良くなった」＋「どちらかというと良くなった」  
 否定層＝「悪くなった」＋「どちらかというと悪くなった」  
 暮らし向き判断指数＝肯定率－否定率

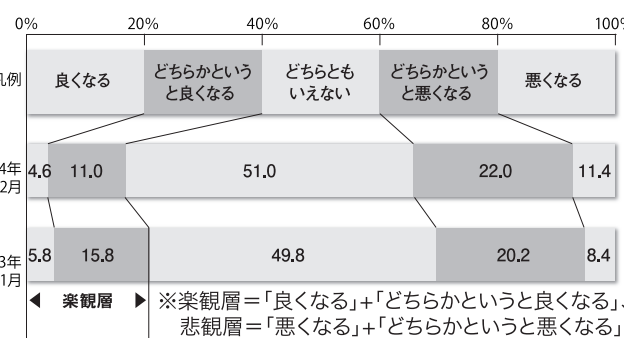
◇「福岡県居住者の「2015年の暮らし向き」に関する調査」はジーコムHPで詳しく見ることができます。http://www.gcom-net.co.jp

調査は昨年12月12日から17日、福岡県在住の20歳以上の男女500人を対象に実施。1年前と比べて現在の暮らし向きが「悪くなった」「どちらかというと悪くなった」と答えたと人の割合が増加し、「暮らし向き判断指数」（左下の欄参照）が大きくポイントを落としています。

は、高年齢層や世帯年収が低い層で、神崎さんは「もともと高年齢層や低所得層は否定的な意見に傾きがちなので、他の層も下落する場合は全体のマイナス幅が大きく出る傾向がある」と解説します。

また、15年の暮らし向きがどうなるかを予想する設問では、やはり楽観層よりも悲観層が上回る結果に。昨年の調査と比較では、楽観層の割合が6割ほど下落をみせています。年代別では、就職が決まるなど将来に向けて明るい展望を持ちやすい20代が、他の年代に比べて楽観層の割合が高くなっていることが分かります。

■2015年の自分自身の暮らし向き予想



※楽観層＝「良くなる」＋「どちらかというど良くなる」、悲観層＝「悪くなる」＋「どちらかというど悪くなる」

「スマートな消費」が生活向上のカギ！

昨年4月の消費税率引き上げ後、消費の持ち直しが遅れたことから消費税率の10%への引き上げは2017年4月へ先送りされましたが、景気の先行きにはまだまだ不透明感が漂っています。景気とともに、私たちの生活環境は今後、どうなっていくのでしょうか。長年福岡で、消費行動を調査・分析してきた株式会社ジーコムが今年2月に発表した「福岡県居住者の「2015年の暮らし向き」に関する調査」の結果を基に、調査を担当した神崎依子さんと考えていきます。

● DATAから

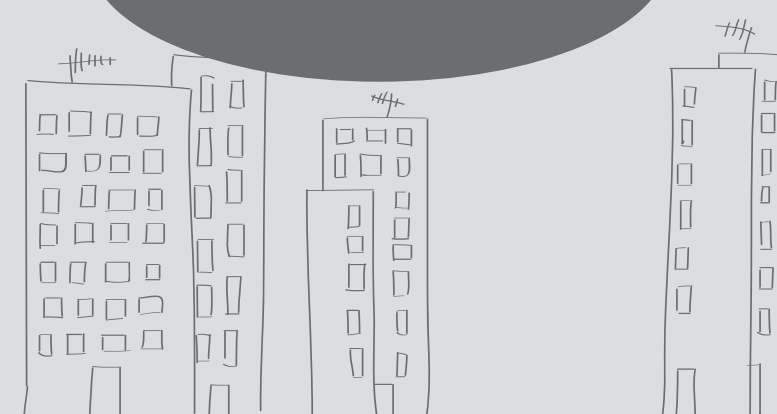
消費税率アップの影響などで

暮らし向きの悪化を感じる人が増加

の比較では、楽観層の割合が6割ほど下落をみせています。年代別では、就職が決まるなど将来に向けて明るい展望を持ちやすい20代が、他の年代に比べて楽観層の割合が高くなっていることが分かります。ただし神崎さんは「この調査はあくまで消費者のマインドを調べたもの」と語り、消費者の持つマインドと、実際の消費活動や経済活動はまた別の傾向を示すことがあり、必ずしも日本経済全体が落ち込んでいるということではありません。消費者意識は大きなニュースに左右され、と

企画・制作／西日本新聞社広告局

専門家が解説します  
ライフ・レポート



どうなる？  
2015年の暮らし向き

【この人に聞きました】

株式会社ジーコム  
生活行動研究所  
取締役 調査研究部部長  
神崎依子さん



金融会社で営業企画、CSプロジェクトを担当後、株式会社ジーコム入社。長年消費分析に携わり、消費者の潜在ニーズをつかむインサイト調査や独自のライフスタイル分析、ターゲット分析を専門とする。近年は、生活者の消費動向から天神・博多の流通事情、住宅関連のセミナーや講演も行っている。今回の調査も担当。

神崎's EYE

お金の使い方のメリハリで、暮らしにプラスアルファを

し向きが良くなった理由として「子育てが終わったから」を挙げる人もいるので、教育費の問題は年代によって解決されるということ。また今後の暮らし向きについては、男性は女性に比べて楽観層の割合が高くなっています。仕事などで経済情報に接する機会が多い男性は、自分のプラスになる動向にもより敏感なのだと思えます。ただし、年代が上がっていくにつれて老後の不安などから悲観層の割合は高くなっていきます。

Q 最近の生活スタイルや消費の特徴は？

最近節約のために全てを我慢するというより、お金の使い方メリハリをつけることで上手に節約する人が目立ちます。例えば、服にはお金を掛けなくていいけど食事はぜいたくしたい、あるいは食事は簡素でいいので趣味や旅行の費用は削りたくない、といった具合です。現代はネットさまざまな情報



Q 暮らし向きに対する意識が、今回大幅に落ち込んだのはなぜ？

消費税率8%への増税、円安による物価上昇という二つの大きなトピックがあったからです。それによって14年はじわじわと値上がりを実感する年になりました。暮らし向きが悪くなった理由を聞いたところ「消費税率が引き上げられたから」がトップで、これは今回調査だけの特徴といえます。アベノミクスなどによって収入

Q 実際の2015年の動向はどうなるの？

14年4月から実施された消費税率引き上げにも慣れ、1年たつて自分のお財布事情も把握できてきたと思えます。また今年の春闘では賃上げの期待が高まるなど、一般世帯の収入増につながりそうな明るいニュースもあります。これから九州では大きな開発が相次ぎ、海外から日本を訪れる観光客も好調に推移しています。このまま想定外のマイナス要因がなければ、年末に向けて全体的に回復し、楽観層が増えることが予想されています。

Q 年代や性別による意識の違いはあるの？

例えば、毎年、子どもが上の学校に進学することで教育費が実際に増える層が一定数いるため、暮らし向きが悪くなった理由に教育費の増加を挙げる人もある程度います。特に、家計をコントロールする立場にあることの多い女性の方が、その割合も高めます。一方で、暮ら